

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★鈴木牧場・新牛舎応援基金 500255 1口500円で期間中(期間:2024年4月2回～2025年3月4回)は毎週募金できます。
★脱原発と暮らし見直し委員会「12年のまとめ」の印刷カンパ 500256 1口200円で毎週受け付けています。



News Letter

2024年9月3回号 発行:常総生協広報G 2024.9.1



＼ 2024年産「めぐみちゃん」／ おいしい新米できました！！

東町特裁米耕作者組合 会長 田口克己さんよりメッセージ

常総生協の皆さんとおつき合いも30年以上になりますね。長年のご利用ありがとうございます。私も今年で80歳になります。早いものです。

さて、今年も突然の豪雨や今も続く連日の高気温など、例年にも増して天候が不安定でした。高温になると、稲は実を守るためにもみ殻を厚くします。そうすると中のお米の粒が小さくなってしまい、中には実が入らない場合もあります。ただ、何とか今のところ順調に育っているかと思います。

初期除草剤1回のみでの栽培が一番大変なのが、とにかく「雑草取り」です。稲を覆い隠す勢いで、どんどん生えてきます。毎年のことですが大変な作業でした。ようやく収穫時期を迎え、除草はひと段落です。今年の東町の作柄は「平年並み」というところでしょうか。

市場に米が出回らず、店頭からも消えているとのことで、特に8月以降「めぐみちゃん」の消費も急激に伸びています。たくさんの組合員に食べてもらえるのはとてもうれしいことなのですが、他で無くなった時だけでなく、日頃から、月に1袋でもいいので繋がりを作ってもらえればもっと嬉しいです。

現在、米農家はどんどん減っています。でも、私たち東町の生産者は、常総生協の組合員にずっと私たちの米を食べてほしいと思って頑張っています。

ぜひ「年間契約」にもご協力ください。

10月5日(土)の稲刈り交流会でも、ぜひお会いしましょう。



2024年9月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●

○「常総っ子応援団」Jin流星台プレイパーク:夏休みが明けたので、毎週木曜日、活動再開です！

- ・9/8甲状腺検診@宇都宮
- ・9/9東海第二第4回口頭弁論@東京高裁
- ・9/21歴史講座『沖縄 さまよう木霊(こだま)～基地反対の素顔』
- ・9/28臨時総代会@生協本部

○提携・協同・連帯企画●

・9/16さようなら原発@代々木公園

1週間に一度届く常総生協の通い箱。
そこに詰められた創意工夫の数々!
今回ピッキングの現場にお邪魔して、その秘密を知ることができました。

特集 : ピッキングの現場から

日曜日の常総生協。2階フロアは、いつもに比べると、人影もまばらです。一方で、1階の冷蔵室は月曜日の配送の準備のため、忙しく働く人たちの姿がありました。



■ピッキングの現場から

1. 番号のついた箱がローラーのついた作業台の上を流れてきます。後方に商品の入った箱が並んでいます。



2. 商品棚のサインの点滅に従って商品を取り出します。

3. 電光掲示に表示された番号に従ってその番号表示のついた通い箱に商品を入れます。



ベテラン細谷妙子さんと長棟純平さん
仲よしツーショット!
ご協力ありがとうございました!



■ピッキングのプロに聞いた、こんな工夫、あんな工夫

1. 作業前の準備は入念に。重い商品からセッティングできるように仕込み。
2. 高さのある商品は箱の隅にセッティング
3. 商品が潰れぬよう、豆腐は2段重ねまでなどの細かいルールがある。
4. 最後に点検! メロンなど転がりやすいものは、動かないよう丸めた包装紙で固定
5. 最後に、通い箱を4段に積み上げる作業。トラックに積み込むワーカーズの人達が間違えなく、荷物移動ができるよう、積み上げる順番にもルールがある。箱詰めの際の瞬時の判断。1つ1つの野菜・果物に痛みはないか、入念なチェック。

お伺いしたことのほんの一部しかお伝えできなくて、申し訳ありません。

「皆さんに喜んでもらえたら」という細谷さんの言葉がとても心に残りました。組合員を代表して感謝です。(報告: 副理事長 都留孝子)

新役員からのメッセージ (11)



監事 佐野 妙子

今期監事を務めます佐野妙子と申します。

常総生協歴も人生歴も長いです。若い方達に刺激を受けながら精一杯役目を果たして行きたいと思います。よろしくお願いいたします。

47年前に取手市に引っ越してきました。間もなく常総生協の方と近所の方が生協の説明に来られ、そのころ無添加で、無農薬で、安心安全な食べ物で子供を育てたいと思っていましたので、すぐに生協に入りました。それから今日まで常総生協の商品が90%を占めた生活をしています（エンゲル係数高いです）。それだけ常総生協は私にとって無くてはならない存在です。

これまで組合員としてのほとんどが商品購入と興味のあるイベントの参加で生協を支えている気になっていました。お客様でした。

一度総代になった時は生協祭や朝市のスタッフとして頑張りましたし、イベントには積極的に参加しました。この時は年齢や地域の違う組合員さんと知り合いになり、いつも購入している商品の生産者さんとも交流し、とても有意義でした。中には、参加者が少なくて残念に思ったイベントもありました。

その後、憲法と歴史の講座が始まり興味があり参加しました。その学びの中で、身近な諸問題は背景にある社会や、政治、法律と切り離せない事が分かり、人任せの人生ではいけない気がしてきました。おかしいと思うことはおかしいと声を上げなければ状況は変わらないし、良くなりません。それは世の中も生協も同じです。今を生きている私達は将来の子供達の為に今を良くする責任があります。

私事ですが、30年前に自然との共生を夢見て福島の山林（標高500m）を購入し、週末に通いながら、家族で山小屋を建て、畑を作り、コツコツと里山造りをしました。春の新緑、山菜採り、夏の満天の星空、天の川、清流のイワナ、ヤマメ釣り、秋の紅葉、キノコ狩り、冬の雪景色、自然の美しさに癒される場所でした。

まさかの原発事故は一瞬にして自然を汚し、仲良くしていた村の人達もバラバラになりました。家の周りは除染されましたが、自然の全ては元に戻らず、深い喪失感を感じました。原発事故は我が家と比較にならないほど、多くの人々を不幸にしました。人の命を脅かし、人間がコントロールできないもの、原発は人間と共存出来ない事、被害にあった人達の深い苦悩（今も続いている）を訴えるために、国と東電の責任を問う裁判を立ち上げました。

東京地裁の判決は、国と東電の責任は認めず、「豊かな自然環境を享受する権利は法律上保護された権利はない」という驚くほどひどいものでした。

東海第二原発再稼働反対も、脱原発も、生命を守り、安心安全な食生活を大切にする生協として活動することは当然のことだと思います。

牛久、本部の懇談会に参加し、昨年の総代会で、[選任制]や[連帯]の議案が詳しい説明も十分な議論もなく少数総代出席者（100人中14人）と書面提出者で議決されたことを知り、不安と危うさを感じました。

[情報の公開] [議論を尽くす] [総代の役割] これからの課題です。

運営面だけでなく、経営状態も安心できません。気候変動や国際情勢の不安等で物価は高騰し、温暖化は止まらず、生産者の方々のご苦勞も、供給の職員さんの健康も心配です。

経営面では、一人一人の組合員の購入量が増えなくても増えること、常総生協の仲間が増えること、戸頭店舗の活用も大事です。生産者、職員、組合員、みんなが常総生協の仲間であって良かったと思える生協が私の望む生協です。

常総生協には他にない独創性があります。**命の大切さ、食の安全、平和な社会を考えているから**です。

私達組合員はどんな生協を望んでいるのか、どんな社会を望んでいるのか、生産者、職員、組合員皆で一緒に考え、より良い生協を創っていきましょう

私の生協を私に出来る事で創っていきましょう。

未来に続く常総生協を！

常総生協に関わるみなさん、こんにちは(^ ^)
ハチドリ仲間(南米・先住民の昔話、森の火を消そうと小さな嘴・
くちばしで水を運ぶハチドリのお話より)をつなぐ
新しいコーナー「ハチドリ・レター」です。
今日は理事の森博子さんからのレターです♪



* JOSO news letter2024年7月5回号に掲載の森さんの自己紹介記事を読んだ組合員さんからの感想が、8月4回号「組合員さんの声」欄に掲載されました。その組合員さんに向けて、森さんから再度、プラスチックについてお話していただきました(^ ^)

プラスチックリサイクルのこと

理事 森 博子

先日のメッセージに、3人の方からお便りをいただきました(ニュースレター8月4回号に掲載※)。ありがとうございます。プラスチック包装を減らせないか、というところにご賛同いただいたと思い、心強く感じています。「各商品を入れるビニール袋は汚れ防止かと思いますが、多少汚れていてもプラごみ削減のためとおもえば全く気になりません」と書かれた柏のFさん、同感です! が、汚れの気になる方がいらっしゃる場合どうすればいいかということと、作業上の要不要の検討が必要かもということを考えたいと思います。

「処理がどんな形で行われているか知ることから考えたい」と書かれた我孫子のMさん、私が知っていることを少し書きます。我孫子のことは教えてください。

プラスチック包装の増加は以前からごみ収集、処理をする市町村の間で問題になっていて、「容器包装リサイクル法」が、1995年に制定され1997年から本格施行されました。しかし、プラスチックの生産量が年々増え、500mlのペットボトルがちょうどこのころ解禁されたこともあって、プラスチック包装はかえって増えたように思います。リサイクルはプラスチック包装を存続させるためのものだったのです。リサイクルされていると思えば、罪悪感もなくなります。

しかも本来ならプラスチック包装を使っている企業がごみ処理費の負担をして、その負担額が大きいと困るので、包装を減らすのが、理にかなった考え方だと思います。しかし企業の力が強いので、もっと

も費用の掛かる分別収集・選別・圧縮・梱包は自治体の負担(税)です。企業はリサイクル費用を出します。

容器包装リサイクル法はプラスチックだけでなく、ビン、缶、段ボールなども対象で、こういったものは9割以上の市町村が収集していますが、容器包装プラスチックを収集している市町村は約70%です。やってないところもあります。

それでは市町村で集められ、選別・圧縮・梱包された廃プラスチックはどうなるのでしょうか。

私が住む柏市では市が収集し、委託業者が選別・圧縮・梱包したペールという大きな塊を容器包装リサイクル協会に引き渡します。そしてパレットという、ものを運搬するときなどに使う工業用スノコになるそうです。これは下記①に入るのかも。下記はプラスチックリサイクルの種類です。

①マテリアルリサイクル

物理的に再加工して新しい製品にする 50%

②ケミカルリサイクル

化学的に分解して再び原材料として利用 20%

③サーマルリサイクル

燃焼させてエネルギーを回収 15%

容器包装プラスチックのうち以上 合計85%がリサイクルされているということですが、後の15%の行方はわかりません。

以上のようにプラスチックの行方を考えると、できるだけプラ包装を減らすのがいいと思います。このニュースレターでピッキングの現場報告をしていただきました。果たしてポリ袋を減らせる余地があるのでしょうか。ピッキングの現場にお邪魔して、作業手順を詳しく見せていただいて、可能かどうか判断できれば、とひそかに思っているところです。石岡のHさん、機会がありましたら手作り化粧品のことなども書かせていただければと思います。

※毎週発行のニュースレターのバックナンバーは常総生協ホームページから読むことができます。2011年から現在までを収蔵。「常総生協ニュースレター」で検索🔍
※ハチドリ・レターについては、前回の9月2回号に詳しく掲載されています。